

INTERNSHIP REPORT 2024

インターンシップ等就業体験実施報告書



岩手大学工学部

FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING, IWATE UNIVERSITY

岩手大学理工学部 「社会体験学習」 実施概要

インターンシップとは、「学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を経験すること）を行う活動」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省定義）で、岩手大学理工学部では下記概要により単位認定を実施しています。

1. 目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」事業は、学生に職場体験させることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ることおよび事業所、地域との連携を図りながら、広く社会に貢献することを目的としています。

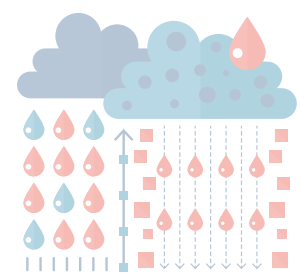
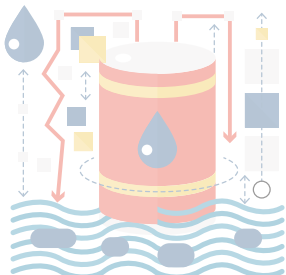
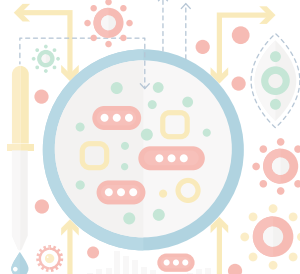
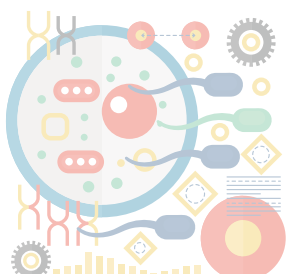
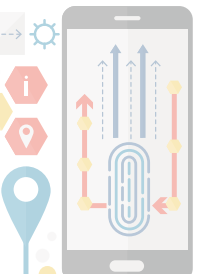
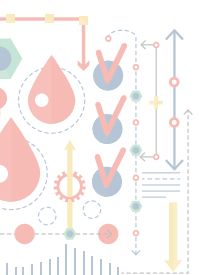
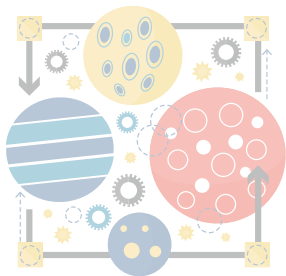
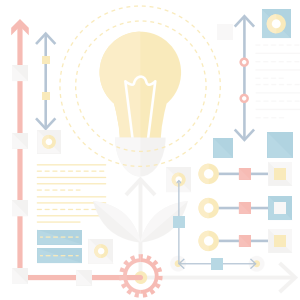
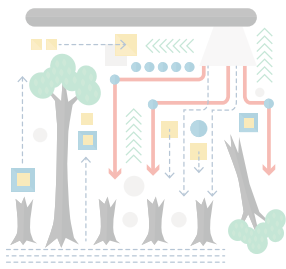
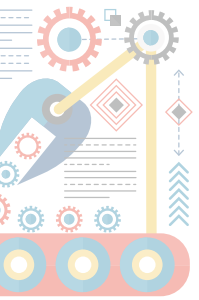
2. 対象学年

この科目の主な対象学年は3年次です。

3. 実習期間及び実習内容

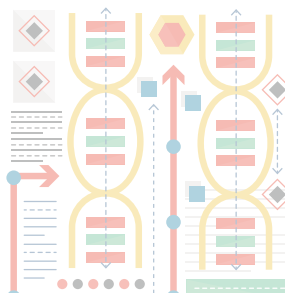
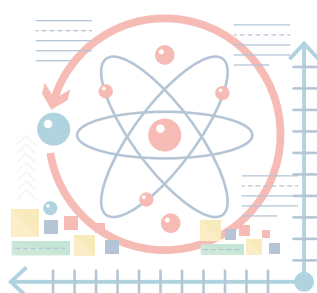
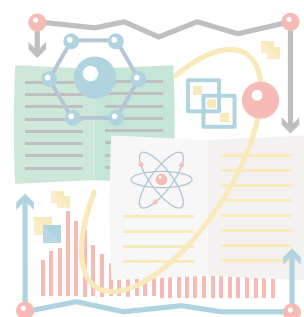
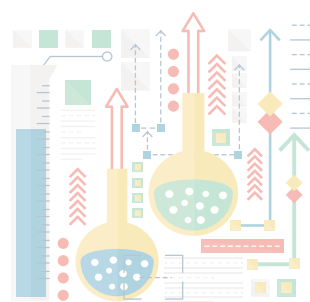
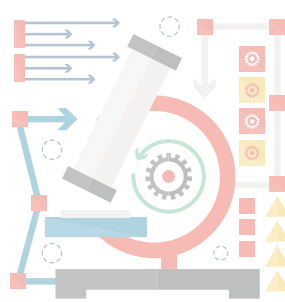
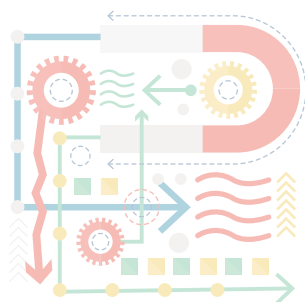
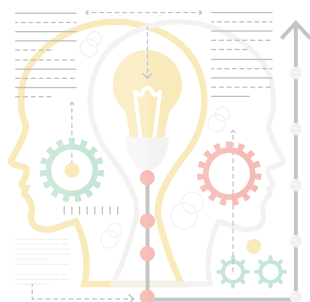
実習期間は原則として夏期休業期間中の5日間以上（40時間）です。5日間（40時間）の実習で1単位、10日間以上（80時間）の実習で2単位が取得できます。

実習内容は基本的に各事業所等が作成したカリキュラムによります。



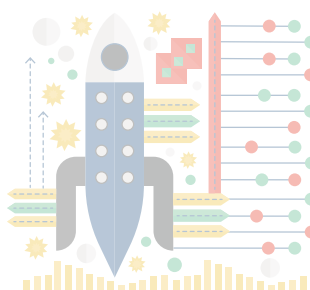
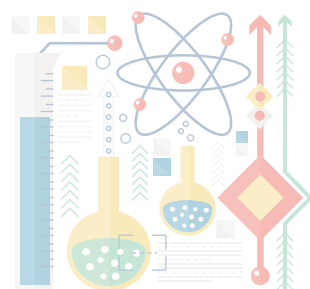
INTERNSHIP REPORT 2024

インターンシップ等就業体験実施報告書



CONTENTS

化学・生命理工学科	化学コース	2
物理・材料理工学科	数理・物理コース	3
物理・材料理工学科	マテリアルコース	4
システム創成工学科	電気電子通信コース	5
システム創成工学科	機械科学コース	6
システム創成工学科	社会基盤・環境コース	7
2024 年度インターンシップ受け入れ事業所実績一覧		8
事業所からの Q&A		9
事業所実績等内訳		10
理工学部インターンシップ実施要領		11
理工学部インターンシップのながれ		12
学生アンケート		13
インターンシップ実施委員名簿		



● INTERNSHIP REPORT



私は、株式会社キオクシア岩手（以下、キオクシア岩手）のインターンシップに9月2日から9月6日までの計5日間参加させていただきました。理由は、以前工場見学でキオクシア岩手の工場を訪問した際に、工場で生産される半導体メモリ製造工場の高度な技術力に感動し、その原理を学びたいと感じたからです。キオクシア岩手は半導体フラッシュメモリを製造する企業です。半導体メモリはUSBメモリやパソコン、スマートフォンなどの記録用メモリなどの日常に欠かせない記憶媒体です。キオクシア岩手ではKIOXU+

AXIA（記憶+価値）のように単なる情報ではなく、記録に感情を加え、「記憶」で世界を面白くする」というミッションのもと、社会が生み出す「記憶」を蓄え、活用し、新しい「価値」を創造して世界を変えていくことを目指しています。キオクシア岩手は株式会社キオクシアの100%子会社です。株式会社キオクシアは株式会社東芝から独立して誕生し、1987年には世界で初めてNAND型フラッシュメモリを発明しました。その後、2007年にBiCS FLASHTMの三次元「一括加工技術」のコンセプトを学会発表して以降、層の数を増やし続け、2020年には112層のメモリを開発しました。キオクシア岩手は2017年に東芝メモリ岩手株式会社として成立し、2019年に現在の社名に変更されて以来、2020年に第一製造棟（K1）が稼働し量産を開始しました。工場では、生産技術部門、製品技術部門等のようないくつかの部門に分かれています。今回のインターンシップでは、1日目は会社概要説明や安全教育、プロセス、用語の説明、クリーンルームの見学、簡易モデル実験を体験しました。ここでは、製造プロセスとプラズマの原理について学び、半導体という学問が幅広く深い学問であると感じました。

2日目以降は生産技術部門の講義を受け、Process Integration、膜形成、リソグラフィ、ドライエッチングの講義で製造プロセスを学び、SiO₂エッチングレートの計算を行い、リソグラフィ、ドライエッチング、アッシングの装置実習を行い完成したシリコンウエハの確認を体験しました。さらに、Process Integration、Yield Management、Metrology、Yield analysisを学び、SEMを用いてメモリの構造を確認し、歩留まり改善の講義と欠陥の確認、データの解析を行いました。製造プロセスによる歩留まりの確認は多くの工程を要するのを学びました。また、メモリを積み上げる技術力の高さに感銘を受けました。さらに、製造プロセスの歩留まり改善・改良の重要性と難しさに加え、多大な労力が必要であることを学びました。総じて、私はインターンシップで半導体メモリの製造プロセスの原理と社会人として必要な意識やマナーを学ぶことができました。また、キオクシア岩手はとても自由で活発な社風であり、工場には多くの高度な専門性を持つ従業員の皆さんが働いていらっしゃる、一人一人の人材を大切に活かすことができる企業であると感じました。

Pick Up

社会に欠かせない半導体
フラッシュメモリの製造の原理を学ぶ

こが しゅんすけ
古賀 駿介

【期間】

令和6年9月2日(月)～
9月6日(金)〈5日間〉

【実習先】

株式会社キオクシア岩手



● INTERNSHIP REPORT

インターンシップ初日は八戸事業所内の工場の見学を行いました。工場は福地第一、福地第二、八戸第一、八戸第二、三沢の計5つに行き、それぞれの工場で作られている製品や歴史について学ぶことができました。多摩川精機には複数の子会社があるため、

私は多摩川精機株式会社八戸事業所（以下、多摩川精機）でインターンシップを行いました。大学での学びを進める中で製造業、特に設計・開発分野に興味を抱くようになり、インターンシップにおいて「実際の職場では、設計・開発とはどのような業務を行っているのか」、「技術開発が優れているのか」ということからどのような工夫を行っているのか」という2点を主軸に是非学ばせて頂きたいと思い、今回のインターンシップの申し込みに至りました。

多摩川精機は、長野県飯田市に本社があり、事業所は長野県に3つ、青森県に1つ拠点を構えています。販売部門は分離され、多摩川精機販売株式会社として全国に8か所の営業所があります。また、研究所は、長野県にスペースロニクス研究所とセンサトロニクス研究所、青森県にモータロニクス研究所があります。今回参加したインターンシップでは、八戸事業所のモータロニクス研究所の設計・開発部門で指導を受けました。

3日目から最終日までには主にフラップアクチュエーター（アクチュエーターは、エネルギー変換のための変換装置と、実際に動く駆動機器という主に二つの要素で構成され、エネルギーによりモータが回転したり、圧力が生じたりして様々な動力が変換されることで動く機械）の組立と分解を行いました。最終的なタイムは組立に47分、分解は29分かかり、それぞれの目標である60分を切ることができました。さらに、実際に作業を行うことで機械に対する理解

分業制によって工場で作られる製品は委託の形をとっていることを知り、とても効率的だと感じました。

2日目は、午前中に会社説明を聞きました。この説明では、製品の種類・使われている場所・機械類について詳しく知ることができました。また、製品説明では、基本的な原理と構造の説明を受けながらモータとセンサそれぞれの製品を詳しく知ることができ、さらに、他社との違いについて教えていただきました。午後には、製品説明でドライバ（モータを動かす制御回路）について説明を受けました。動かすモータの規模によってドライバの大きさは異なりますが、基本的な回路はほぼ同じということを知りました。また、試験見学の際に実際に機械が動いているところを見ることができたため、より一層理解が深まりました。

Pick Up

設計・開発業務の
実体験内容から学ぶ企業研究

田口 凌汰

【期間】

令和6年8月26日(月)～
8月30日(金)〈5日間〉

【実習先】

多摩川精機株式会社



を深めることができた貴重な体験でした。

私は、本インターンシップを通して、職場環境の良さがとても印象に残りました。本インターンシップでは、5日という短い期間に加え参加者数が多かったため設計の分野を体験することができず残念に感じましたが、設計・開発における業務の流れや発注から生産までの部門ごとの働きについて実体験を踏まえたお話から学ぶことができました。これらの活動を通して、設計・開発分野を知ることが出来たので今後の企業研究で、学んだことを活かして活動していきたいです。

最後に、お忙しい中本インターンシップでご対応していただいた多摩川精機株式会社八戸事業所の皆様ありがとうございました。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

製造における設計体験から
具体性のある就職活動の糧すがわら
菅原
渓

【期間】

令和6年9月9日(月)～
9月13日(金)〈5日間〉

【実習先】

株式会社 多加良製作所
(岩手工場)

インターンシップ等就業体験実習報告

私は、9月9日から9月13日の5日間にかけて株式会社多加良製作所岩手工場（以下、多加良製作所岩手工場）で実施されたインターンシップに参加しました。大学の授業で、金型の材質などに触れた際、実際に金型を製作する際の材質ごとの注意事項や金型設計に興味を持ち、今回のインターンシップ申し込みに至りました。

多加良製作所岩手工場では、主に半導体チップを封止するためのモールド金型や、モールド後のトリム&フォームを行う金型、半導体用のリードフレームを製作できるリードフレーム金型の製作、プレス、インサート金型等の様々な金型設計・製作・部品生産を行っています。特に、製作している金型の8割は新製品や研究開発品となっているため、1960年代より続く高いノウハウを持った会社であると感銘を受けました。

今回の実習では主に設計コースを体験させていただきました。設計コースでは、2日目から3日目の午前にかけてCAD操作を学習し、3日目の午後には実際に多加良製作所岩手工場が作成した金型を使用した演習を2件行いました。

CAD操作の演習では、私は全くの初心者でしたが担当の方が丁寧に教えてくださったおかげで、演習後には一定のCAD操作を行えるようになりました。

金型設計では、モールド金型を一から構想を練って作成するという演習を行いました。重要な点は、ゲートと呼ばれる樹脂を流入させる入り口を後から製品とともに取り外せるように金型に作らなければならないということです。1つ目の製品

では、平べったく、すべて樹脂を流入させることで製作する部品であったことから、金型の構想及び、製作は比較的簡単に行えました。2つ目の製品では、イメージとしてはクッキーの表面にチョコをかぶせたお菓子のような、もともと金属でできている製品に対して、一部分を上からかぶせるように樹脂を付ける金型を設計するを行いました。この製品の金型設計がなかなか難しく、樹脂をくっつけるところを密閉しなくてはならないこととゲートを取り



外せる形に取り付けることの両立が難点でした。また、モールド金型の他にも、今回担当された方はプレス金型を主に設計されている方でしたので、実際に設計図などを見せていただくことができました。

今回のインターンシップでは、製造における設計ではどのような業務を行っているのかという点について、5日間の設計体験を通じて身をもって知ることができました。私は、実際に自分にできる仕事であるかどうかを軸に就職を考えているため、今回の体験は具体性をより持つて就職活動を行うための糧となりました。最後になりますが、お忙しい中インターンシップの受け入れをしてくださるご指導いただきました多加良製作所岩手工場の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

● INTERNSHIP REPORT



インターンシップ等就業体験実習報告

私は、日本水工設計株式会社大阪支社の5dayインターンに参加させていただきました。

Pick Up
コンサルタントは『人柄』を大切にしている

もとだて **本館**
 あかり **朱里**

【期間】
 令和6年8月19日(月)～
 8月23日(金)〈5日間〉
 【実習先】
 日本水工設計株式会社
 大阪支社

日本水工設計株式会社は「水コンサルタント」として、浄水場やポンプ場など水に関わるあらゆる設備の建設コンサルタントを行っている会社です。土木や機械設計などの部門があり、私は電気設計課でインターンシップを行いました。

私は就職活動において「生活に無くてはならないものを支えたい」ということを軸としており、生活に必要不可欠な水インフラを支える日本水工設計は、まさにこの軸と合致していると思い参加しました。電気設計課のインターンシップは東京支社でも開催されていましたが、全く知らない土地のインフラを学んでみたいという好奇心で大阪支社を選びました。

インターンシップでは会社やそれぞれの部門について説明いただいた後、4、5日間かけ新設するポンプ場の電気設備の比較・選定や運転方案の作成、配線計画や概略の事業費計算といった、電気設計の一通りの流れを体験させていただきました。

電気設備の比較・選定では、数種類の設備の特徴や設置条件、費用などを表に分かりやすくまとめた上で、あらゆる側面から検討し決定します。このとき感じたのは、コンサルタントの仕事は事実を整理し、発注者の要望や条件に合わせた計画をすることがコンサルタントの仕事で、そのためにはコミュニケーション

ン能力が必要不可欠であると感じました。設備を比較した上で、なぜその設備を選定したのか、メリットは何かを発注者に分かりやすく説明する能力が求められます。発注者が求めるものをヒアリングするためにも会話をする必要があります。電気設備の知識だけでは成り立たない仕事なのだと感じました。

電気設計課では電気設備だけでなく、無線監視システム等の情報分野やIoTの知識が求められていました。また、業務の中には材料の数量計算や工事費計算など、設計と聞いてイメージが湧いていなかった業務もありました。コンサルタントとして、設計し発注者に分かりやすく説明できるようにするためには幅広く深い知識を身に付ける必要があると感じました。

今回の実習で最も印象に残っているのは、担当してくださった方がおっしゃっていた「コンサルタントは『人柄』を大切にしている」という言葉です。その言葉の通り、コンサルタントという仕事をする上で大切なのは発注者と信頼関係を築くことだと学びました。

社内でも社員同士で活発にコミュニケーションが取られており、今回も学生と社員の方が会話する機会を沢山設けていただきました。設計は他部署と連携して行うため、社内の雰囲気の良いことも良い仕事をするために必要なことだと感じました。

末筆ではありますが、お忙しい中インターンシップを受け入れてくださった日本水工設計株式会社の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

● INTERNSHIP REPORT



インターンシップ等就業体験実習報告
私は、株式会社岩手村田製作所（以下、岩手村田製作所）で5日間のインターンシップを行いました。私は大学卒業後の進路として主に電子部品のメー

Pick Up

様々な観点からの合理化方法と コミュニケーションの活発化

阿部 慶治朗

【期間】

令和6年9月23日(月)～
9月27日(金)〈5日間〉

【実習先】

株式会社
岩手村田製作所

カーへの就職を考えているため、インターンシップでは実際に商品を作る過程や製造ラインの作成などの間接的な仕事の体験をしたいと考えていました。

本インターンシップで伺った岩手村田製作所様は水晶振動子や水晶デバイスという電子部品の製造を行っているメーカーです。水晶をマイクロンサイズまで加工し、その後パッケージと電気特性を与えデバイスとすることを主に行っています。水晶や商品の細かさや量産するためにその会社独自で加工機械を製造から改良を行っていることにとても驚きました。また、不良品を世に出さないための検査工程が特徴的であるため、この作業に対する熱意を感じました。

実習内容としては、初日に会社概要の説明と工場見学、2日目から5日目はそれぞれ製造、IE、合理化、保全業務を1日ごとに座学と実習を行いました。

全体を通じて感じたことは、安全第一を大切にしていることです。安全第一というのは初歩的なことであるとは思いますが、実際に全国の事業所において労災に該当する事案は発生しています。そのため、特に社員の精神的な面に影響が出ないように設備を設計していると感じました。

2日目は現場で仕事を行う製造と主に製造効率の改善やメンテナンスを行うなどの間接的に仕事を

するIE、合理化、保全について座学、実習を通じて学びました。

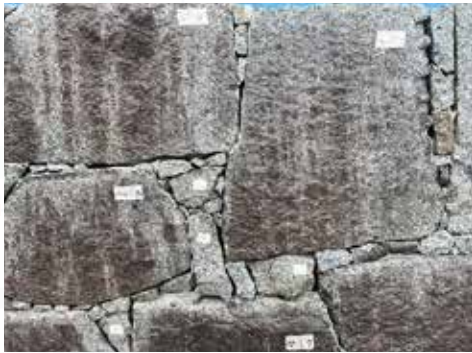
私は機械科学コース所属であるため、今回は合理化業務を特に力を入れて取り組みました。合理化は生産ラインの効率化や新しい機械の導入などが主な業務内容です。ここで学んだことは、ただ生産効率を上げるために新しい機械を導入すれば良いというわけではなく、コストや量産時の利益率などを考慮しなければなりません。仮に、生産速度や効率が向上したとしても、先行投資が過大である場合は利益が減少するため、様々な観点から合理化の方法を検討しなければなりませんということを学びました。また、機械も人も適材適所であるというお話をお聞きしたことが印象に残っております。すべての作業を機械で行えることが良いという考えがあると思いますが、正確な操作や高い技術力が求められる工程は機械よりも人が行う方が効率やコスト面でメリットがあるということを知りました。これは、機械に固執しすぎていたことに気づききっかけとなり、より広い観点で物事を捉える必要があると感じました。

最後に全体を通じて見学や実習から気づいたことは部署や役職に関係なく活発なコミュニケーションが行われていることです。一人ひとりが定められた単一の業務を行うのではなく、多くの部署が関わって作業を行っているため、自己磨きを十分に行える企業であることを感じることができました。また、活発なコミュニケーションによって労働者一人ひとりが安心して仕事ができる環境となっていることは、皆様の努力の賜物であると思います。加えて、スキルアップを無理なく行うことができる環境であると感じました。

末筆ではございますがお忙しい中で実習をさせて頂いた岩手村田製作所の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

● INTERNSHIP REPORT

必要があります。現場ご様々な分野の工事となりますが、工事概要についての知識だけでなく過去の工事事例をもとに、現場の管理が行えるように日々新しい知識を身に付ける必要があると考えました。計画を立て、協力会社にそれら計画を安全かつ正確に仕事を進めてもらうように監督者として現場を見守り、都度指導を行うという立場であるため、現場内のコミュニケーションを大切にすることで自らが施工管理を行いやすい環境を作ることが大切であると学びました。



また、足場を組み立てる際にはどのよう高さ・幅で足場を組み立てれば作業を効率的に行えるかという観点で考える必要があると学びました。また、足場を使用する上での安全性は十分であるかも考慮しな

ければならなかったため、実際の現場では転倒の危険性をなくすために、手すりの間隔・高さ、及び鉄板の隙間の長さ定めていました。足場内の作業エリアと通路エリアを区別し、各フロアのスペースを十分に確保することで安全性の向上も図っていました。また今回の工事は、国指定史跡盛岡城跡の工事であるため現場内の様々な箇所で見守りが見られ、特に足場では、山留材や木材を使用して杭をそのまま打たないよう考慮して計画されていました。また施工管理の仕事とは、現場の計画・安全管理だけではなくと学びました。街中で行われる工事では、地域社会や住民に対する理解を得ることがとても重要です。そのため、安全対策用の仮囲いに石垣の説明を書いたり工事概要を説明したりすることで、仕事のアピールを行い工事に対する理解を深めることも大切であると感じました。公共工事であるため市開催の見学会に協力して貢献活動も多く行うことで、今後長く盛岡で愛されるものになると考えられます。最後に、構造物の強度だけではなく、これが100年をつくる鹿島建設の本質的な意味であるのではないかと学ぶことができました。

私は、株式会社鴻池組東京本店・東北支店と鹿島建設株式会社東北支店でインターンシップを行いました。2社のインターンシップを通して、現場における施工管理の職務内容や必要となる力を学び、今後施工管理の職に就くために身に付けるべき知識や能力を考えることができました。

鹿島建設株式会社は、盛岡城跡石垣修復工事事務所でお世話になりました。現場では現場所長に5日間ついて歩いていました。現場では働く人々が現場でどのように働いているのか、施工管理として現場全体をどのように見るのか多く実感し学ぶことができました。まず、施工管理の仕事の一つとして計画の立案及び実施がありますが、詳細についてはインターンシップに参加するまで知りませんでした。そのため、今回の体験では事務所の立ち上げ計画・足場の組み立て計画について学びました。まず、事務所を立ち上げる際は、作業の導線を考慮した計画を行う必要があります。

インターンシップ等就業体験実習報告

Pick Up

安全・環境・品質・工期・原価管理のバランスと
安全対策アピールで工事に対する理解

かのまた
鹿又 由衣

【期間】

令和6年8月6日(火)~8月8日(木)(3日間)
令和6年8月28日(火)~9月3日(火)(5日間)
令和6年9月4日(水)~9月6日(金)(3日間)

【実習先】

株式会社鴻池組
鹿島建設株式会社



2024 年度インターンシップ等就業体験 受け入れ事業所実績一覧（五十音順）

事業所名	所在地	期間	実習生数	コース名
株式会社アイオー精密	北上市	5日間	1	マテリアル
株式会社アイディーエス	奥州市	5日間	1	電気電子通信
青森日揮プランテック株式会社	青森県	5日間	1	機械科学
一関ヒロセ電機株式会社	一関市	5日間	1	電気電子通信
岩手県企業局	盛岡市	5日間	1	機械科学
岩手県土地改良事業団体連合会	盛岡市	2日間	1	社会基盤・環境
岩手県県土整備部県土整備企画室	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
岩手県県土整備部盛岡広域振興局土木部	盛岡市	5日間	3	社会基盤・環境
岩手県農林水産部農村計画課	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社岩手村田製作所	盛岡市	5日間	2	機械科学
大井電気株式会社 沢製作所	奥州市	5日間	1	機械科学
鹿島建設株式会社東北支店	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社片桐製作所	山形県	5日間	1	機械科学
キオクシア岩手株式会社	北上市	5日間	2	化学
国土交通省東北地方整備局	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
国立研究開発法人日本原子力開発機構原子力科学研究所先端基礎研究センター	茨城県	5日間	1	数理・物理
株式会社鴻池組東北支店	宮城県	5日間	2	社会基盤・環境
株式会社昭和土木設計	矢巾町	5日間	1	社会基盤・環境
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社山形テクノロジーセンター	山形県	5日間	1	電気電子通信
大成建設株式会社東北支店 成瀬ダム原石山採取工事作業所	秋田県	5日間	2	社会基盤・環境
株式会社多加良製作所岩手工場	北上市	5日間	1	マテリアル
多摩川精機株式会社 八戸事業所	青森県	5日間	2	数理・物理
株式会社都南建設	盛岡市	2日間	2	社会基盤・環境
新潟県新発田地域振興局地域整備部	新潟県	5日間	1	社会基盤・環境
日本水工設計株式会社大阪支社	大阪府	5日間	1	電気電子通信
日本ファブテック株式会社	茨城県	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社福山コンサルタント東北支社	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社復建技術コンサルタント	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社復建技術コンサルタント盛岡支店	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社ミクニ盛岡事業所	滝沢市	5日間	1	機械科学
宮城県仙台土木事務所	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
盛岡市建設部交通政策課	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
盛岡市都市整備部盛岡南整備課	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
矢崎総業株式会社	栃木県	5日間	1	機械科学

事業所数 計 34 事業所 実習生数 延べ 42 名

事業所からの Q&A

Q 各学科の授業科目の学習内容を確認したいのですが？

A 大学のホームページに各授業科目のシラバスがありますので、そちらでご確認ください。

大学シラバスサイト:

<https://ia2.iwate-u.ac.jp/websyllabus/kensaku/slbsCtlSyllabusKensaku.php?new=1>

[岩手大学In Assistant2.0 (アイアシスタント2.0)]

Q 学生との雇用関係はありませんが、受け入れた学生自身の傷害事故・学生の過失による事業所・第三者への加害事故による補償はどのようになっていますか？

A 学生自身の傷害事故については、基本的に自己責任との観点から、事業所の過失の有無とは無関係に一定の保険金が支払われる傷害保険等の加入を指導し、大学で加入済みの確認をしています。また、必要に応じて事業所側で賠償責任に備え保険に加入することはかまいません。なお、大学で加入指導している学研災・賠償責任保険の補償と保険料は下記の表のとおりです。

Q 実習生と協議し実習期間を事前に調整しましたが、開始日、実習期間などは変更してもよろしいでしょうか。

A 大学・実習生・受入事業所間で取り交わした「岩手大学理工学部インターンシッププログラム覚書」には、実務を経験する期間の具体的な日程は明記されていないので、開始日、実習期間の延長なども三者で調整いただければ結構です。

【学研災・賠償責任保険の補償と保険料の例】（2024 年度現在） ※詳細は大学 HP から確認して下さい。

名 称/学生教育研究災害傷害保険 (1,200 万円コース)

死亡保証金 1,200 万円 (正課中・学校行事中の場合)

後遺障害保険金 程度により 72 ~ 1,800 万円 (正課中・学校行事中の場合)

医療保険金 治療日数 (1 日目~) により、3,000 円~ 300,000 円

(正課中・学校行事中の場合は 1 日以上が対象)

入院加算 1 日につき 4,000 円 (180 日限度)

保険料 年額 820 円

2 年間 1,440 円 ※付帯特約を含む。

名 称/学研災付帯賠償責任保険

(※こちらの保険は学生教育研究災害傷害保険の加入が必須条件です)

賠償責任保険金 対人賠償と対物賠償合わせて 1 事故につき 1 億円限度

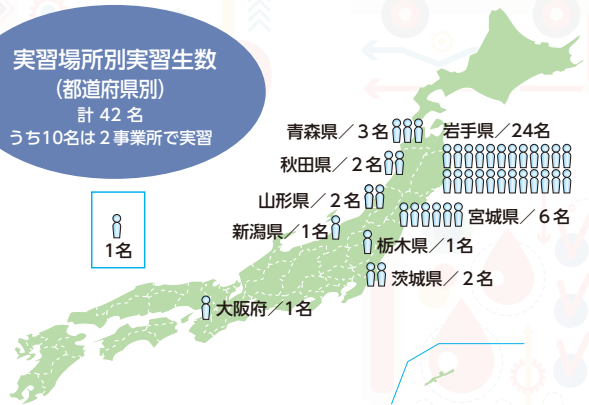
対象・保険料 A コース 正課、学校行事など (インターンシップを含む)
(年額 340 円)

事業所実績等内訳

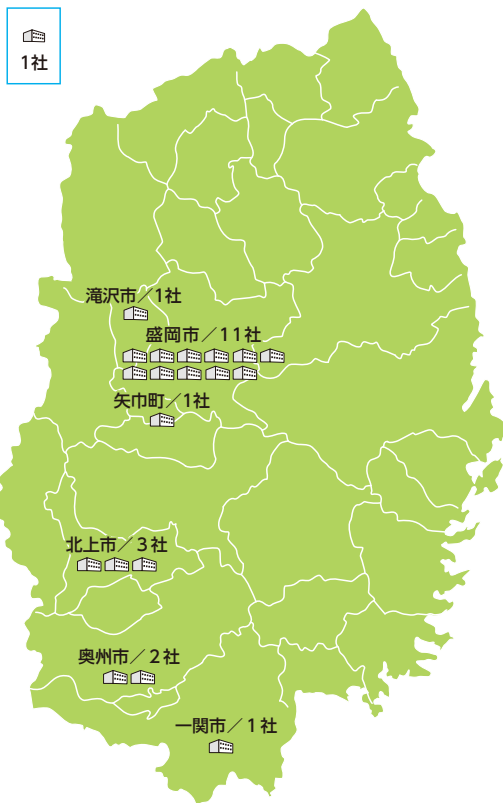
実習場所別事業所数
(都道府県別)
計 34 事業所



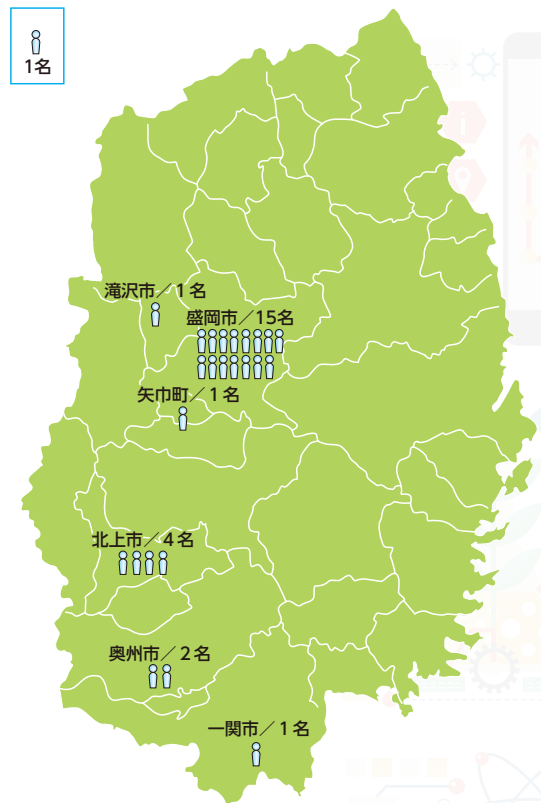
実習場所別実習生数
(都道府県別)
計 42 名
うち10名は2事業所で実習



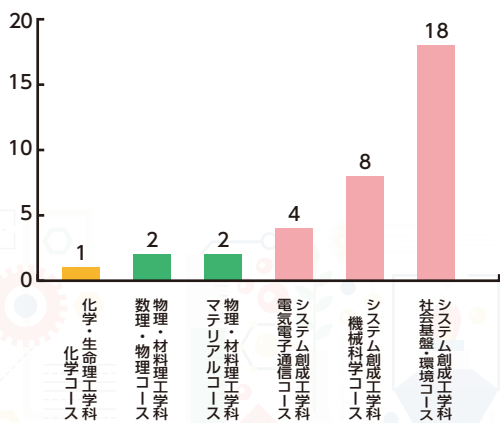
実習場所別事業所数 (県内市町村別) 計 19 事業所



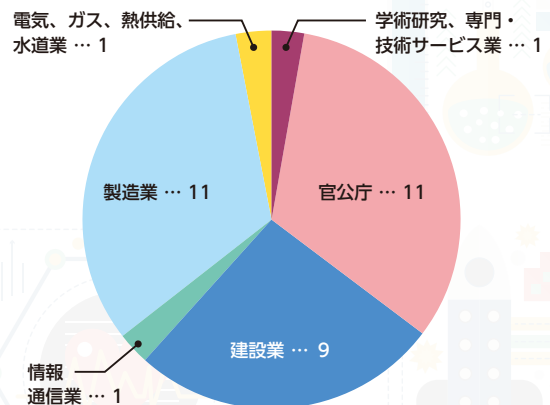
実習場所別実習生数 (県内市町村別) 計 24 名



コース別実習生数 (実数) 計 35 名



業種別事業所数 計 34 事業所



岩手大学理工学部社会体験学習実施要領

1 目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」事業は、学生に就業体験をさせることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ること及び事業所、地域との連携を図りながら、広く社会貢献の基盤を作ることを目的とする。

2 対象学年等

この事業は3年次対象の集中学習とし、単位数は1～2単位とする。
なお、単位認定は5日間(40時間)を1単位、10日間(80時間)を2単位とし、2単位を限度とする。
また、大学院生の受講を認める。

3 実施期間

インターンシップ等就業体験は、主として夏季休業期間に実施する。

4 受入事業所の確保

インターンシップ等就業体験における受入事業所の確保のために受け入れの依頼を行い、受入条件を確認の上、事業参加への了承を得る。

5 受入事業所の公表

受入事業所の内容・条件(受入機関の名称、業務、住所、受入期間、学生の実習内容、交通・宿泊施設の有無等)を公表する。
なお、実習中の報酬については原則無報酬として扱う。

6 他機関によるインターンシップ事業への参加

本事業以外に実施されている他機関の主催するインターンシップ事業に参加することができる。
ただし、単位認定に関する申請等は本事業の実施要領に基づき対処する。

7 自己開拓事業所の決定

学生が自己開拓した受入事業所を希望した場合は、委員会が実習体制、カリキュラムの内容を調査し、適否を判断する。

8 履修申告

インターンシップ等就業体験について単位認定を受けるためには、授業科目「社会体験学習」の受講を申し込まなければならない。

9 受入事業所の調整及び決定

参加希望学生からの申込に基づき、派遣学生を決定する。
なお、受入期間及び受入事業所における実施カリキュラムの内容は随時調整することができる。

10 覚書の取り交わし

インターンシップ派遣学生、受入事業所及び大学との三者で覚書を取り交わし、実施形態・実施方法を確認する。また、実習生紹介書(履歴書)を受入事業所に提供する。
なお、他機関によるインターンシップ事業での参加学生の場合は理工学部社会体験学習の覚書等を省略することができる。

11 就業体験中における事故・損害、機密保持

就業体験中に万が一発生する事故等に備えて、インターンシップ参加学生の傷害・損害等の保険加入を指導し、派遣確定後は大学で加入の確認を行い、リスクの解消に対応する。

なお、保険の種類として学生自身が傷害を負う場合及び学生が入入事業所や第三者に損害を与える場合に対応できる保険とする。(委員会では「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」を推奨する。)

また、入入事業所との覚書によって、守秘義務を負うことを確認する。

12 事前指導

社会体験学習を受講する学生は事前指導を受講しなければならない。事前指導ではインターンシップ等就業体験の目的・効果、安全教育、職業意識と心構え、ビジネスマナー、業界及び事業所の研究、履修指導、保険加入等の指導及び学習に関して数回に分けて行い、インターンシップの効果を上げる。

なお、事前指導の内容は委員会が決める。

13 就業体験実施期間の体制

実習が学外の受入事業所で行われること、特に運営が大学等の休業期間中に実施されることから、非常時の連絡体制を整備する。

14 事業所訪問

インターンシップ実施委員会委員は実習を円滑に進行させるため、また、大学と事業所間の連携活動として、必要に応じてインターンシップ期間中に事業所を訪問し、事業のフォローアップを図る。

15 就業体験の評価・報告

受入事業所では実習に対する学生の態度、テーマへのアプローチについての評価・報告を行い、大学では学生成績評価の総合判定資料とする。

また、実習中の学生は実習日報を作成することにより設定テーマの進捗状況を確認し、目標達成度を判断すること。最後に自己評価を含めた実習レポートを作成し、大学に提出する。

16 事後指導

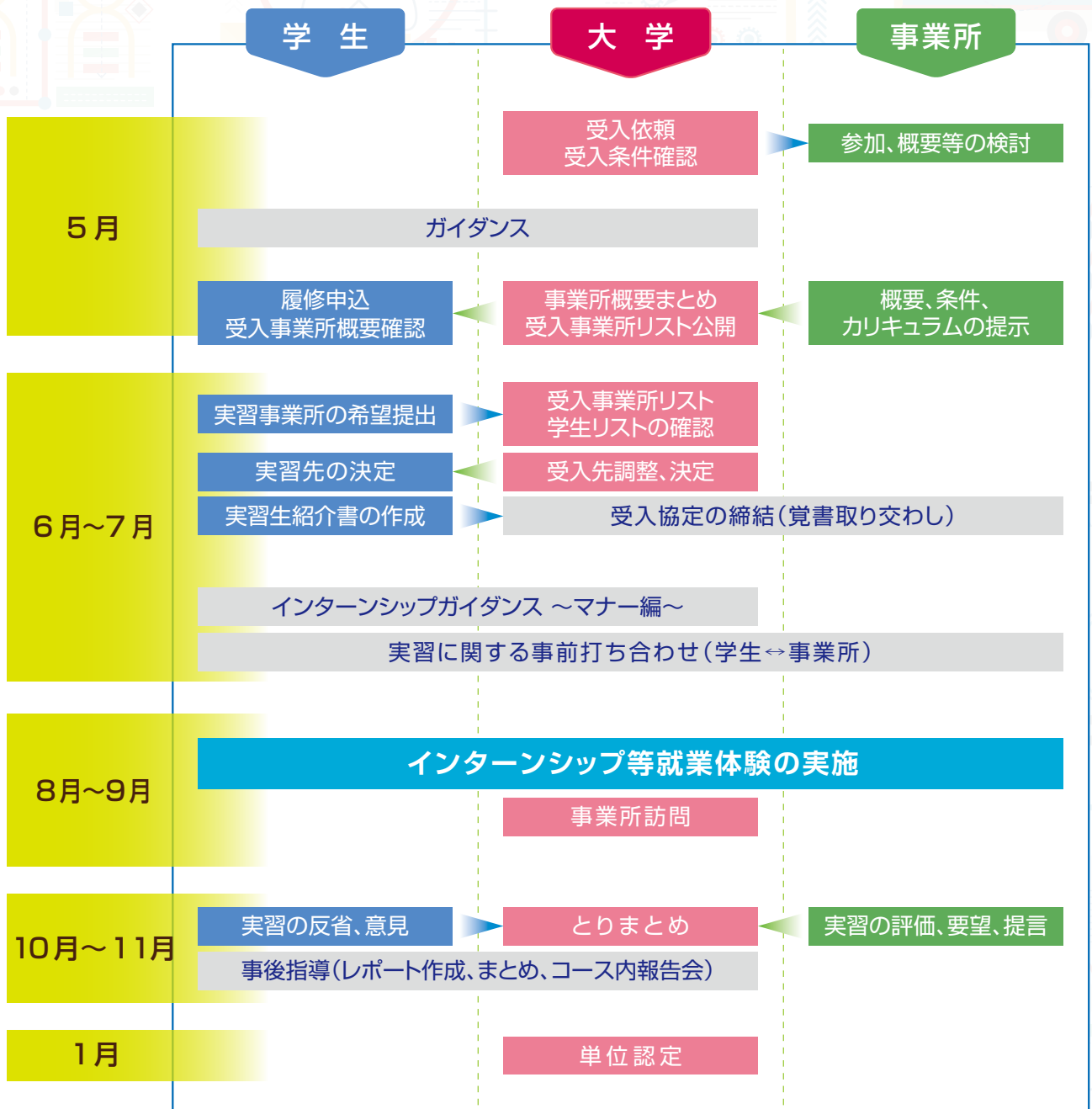
インターンシップ等就業体験終了後、実習で得たものを学生が互いに認識し確認しあうために、学生間のディスカッション、自己評価及び今後の学習に必要な課題提出等の指導を行う。

17 単位認定

単位の認定は、事前指導・事後指導・報告会への出席状況及び事業所からの報告、学生からの実習日報及び実習レポートにより総合判定する。

18 その他

この事業の実施に関してその他必要な事項がある場合は、インターンシップ実施委員会と協議する。



学生のメリット

- 事業所の現場における実習を通じて、自主性、独創性、実社会での適応力を養うことができる。
- 実際の現場に触れることで、学問・研究について新たな学習意欲が喚起される。
- 事業所に対する理解が深まる。
- 自分にあった職業を選ぶ能力が身に付く。
- 将来に対して同様の目的意識を持っている仲間と出会うことができる。

大学のメリット

- 実践的な人材を実社会に送ることができる。
- 座学だけでなく実践的な教育カリキュラムを持つことができる。
- 教育改善・充実ができる。産業界のニーズを知り、教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所に対する理解の促進、連携が深まる。
- 学生の進路指導において、ミスマッチングを防ぐことができる。

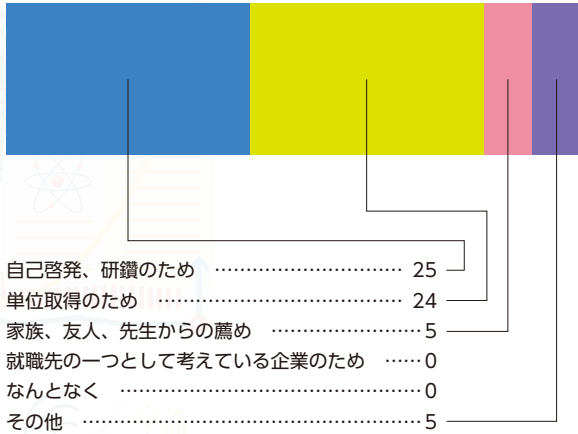
受け入れ事業所のメリット

- 社員等が学生を指導することによって意識が向上し、社員の研修になる。
- 学生との意見交換を通じ、新鮮な視点、新たなネットワークを得ることができる。
- 自社に適した学生と、つながりを持つことができる。
- 新卒採用の選考において参考になる(ミスマッチングを防げる)。
- 大学(教員等)との連携が深まる。研究二重を大学へ反映させることができる(卒論、修論テーマ、共同研究への発展など)。
- 大学教育に産業界等のニーズを反映させることができる。教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所についての理解が促進され、学生を通してPR効果が期待できる。
- 実践的な人材育成という社会貢献ができる。

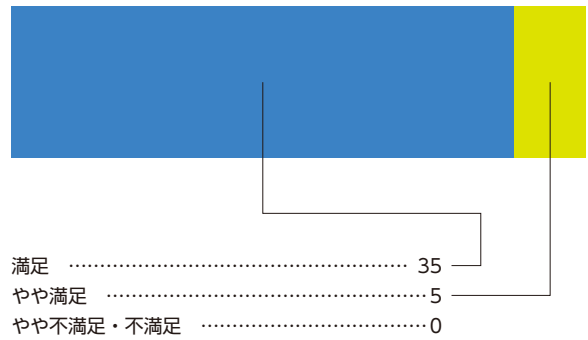


理工学部 社会体験学習に 参加した学生にアンケートを実施しました

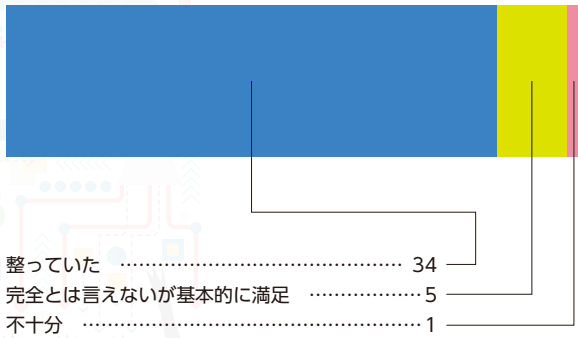
●インターンシップ受講の動機 (複数回答可)



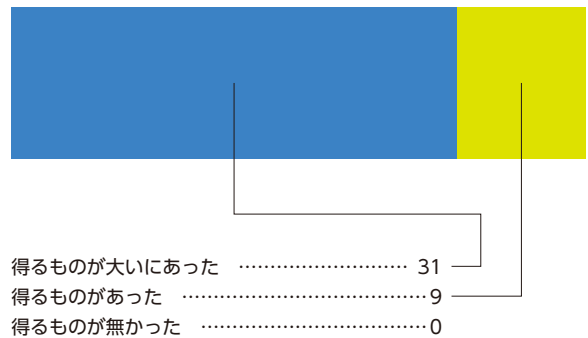
●受け入れ先の対応に対する満足度



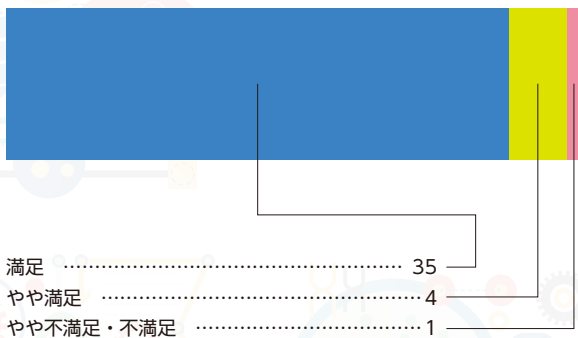
●研修先の受入れ体制は整っていたか



●今回参加して得るものがあったか



●実習内容に対する満足度



2024年度 インターンシップ実施委員会名簿

	コース	氏名
委員長	生命コース	荒木 功人
副委員長	化学コース	桑 静
委員	数理・物理コース	川崎 秀二
	マテリアルコース	大柳 洸一
	電気電子通信コース	菊池 弘昭
	知能・メディア情報コース	談 宜育
	機械科学コース	清水 友治
	社会基盤・環境コース	谷本 真佑
学務課 理工学部担当（学生センターA棟4番窓口）		

今年度の社会体験学習にあたり、多くの事業所で本学理工学部の学生をお受け入れ頂き誠にありがとうございました。学生にとってこの実習は非常に有意義な経験となり、今後の学習・研究に励む新たな意欲を与えていただいたことと思います。また、本報告書を作成するにあたりご協力いただきました関係の皆様には重ねて御礼申し上げます。

下記ページに理工学部社会体験学習に関する情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

● 掲載URL <https://www.se.iwate-u.ac.jp/is/index.html>

Thank you...



〒020-8550
盛岡市上田三丁目18-34
岩手大学学務部学務課理工学部担当

TEL 019-621-6307
FAX 019-621-6065
E-mail grikei@iwate-u.ac.jp